

平成 26 年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：2014年4月～2015年3月

※今年度の年次報告書は担当者の名前、メールアドレス、添付資料を除き、HP等で公表します。また、ユネスコスクールの質の確保の観点から、報告書の内容が一定の基準に満たないもの、報告書が2年連続して未提出の場合には、ユネスコスクールの認定取消を勧告させていただくことがありますので、あらかじめご了承ください。

1. 学校概要

学校名 大河原町立大河原中学校

種別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫教育
 中学校 高等学校 中高一貫教育
 教員養成 技術/職業教育
 特別支援学校 その他 ()

住所 〒 989-1247
宮城県柴田郡大河原町字東1番地

E-mail : daichu@town.ogawara.miyagi.jp

Website : _____

児童生徒数：男子 319名 女子 312名 合計 631名
 児童・生徒の年齢 12歳～15歳

2. 担当者 ※公表しません

3. 実施活動（複数選択可）

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- 国際理解
- 世界遺産
- 平和・人権
- 環境
- 気候変動
- 生物多様性
- エネルギー
- 防災
- 食育
- 伝統文化
- そのほか ()

4. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

1 主な内容

国際理解, 防災・減災教育, その他 (ボランティア活動)

2 目的

- ① 宮城県岩沼市の仮設住宅に住む被災された方々への支援活動を通して, 生徒たちに絆やつながり, 協力や協働といったボランティア精神の育成をめざす。
- ② 県内でも内陸部と沿岸部では震災への意識に温度差があるので, 生徒会に「復興支援委員会」を組織し, 定期的な支援活動や交流を図り生徒の復興支援への意識を高める。
- ③ 生徒の防災活動の活性化に取り組み, 自ら進んで安全活動に取り組む意識や, 地域住民の一員として防災意識の高揚を図る。
- ④ 海外の被災地の様子を知ることを通して, これまで行ってきた被災地支援の目を広く海外に向ける。

3 実践内容

(1) 年間活動報告

月	実践内容	添付資料
5	生徒総会 (これまでの復興支援の取組を紹介し継続した支援活動を確認)	
6	被災地支援活動Ⅰ (花植えを通じた交流)	写真1
7	JRC一日トレーニングセンター参加	
8	独居老人宅での除草ボランティア	
	生徒向け救命救急講座	
9	広島市土砂災害募金活動	
	国際理解講演会	写真2
10	文化祭でこれまでの取り組みを発表	
11	大河原町総合防災訓練参加	写真3
12	被災地支援活動Ⅱ (仮設住宅での吹奏楽部によるミニコンサート, クリスマスツリー設置)	写真4 新聞記事
1	ボランティア生徒による雪かき	
2	全校集会 (報告と発表)	
通年	JRC委員による朝の地域清掃	
	地域の福祉団体とタイアップしたボランティア活動	
	書き損じはがき, エコキャップ収集	

(2) 実践活動例

1 被災地支援活動Ⅰ「花で岩沼市の被災された方々と交流しよう (花植え活動)」

① ねらい

- ・ 震災後, 被災した土地で復興に取り組んでいる岩沼市玉浦林地区を伺い, 地区の方々と一緒に花をミニプランターに植え, 交流を深めるとともに, 地区の方々の交流の場を設ける。
- ・ 地区の人と一緒に作業を行う際に, お茶のみなどをしながら, 震災時の様子や今後必要な支援についてお話を伺い, 今後の被災地支援活動の参考とする。

- ② 日時 平成26年 6月 7日(土)
- ③ 場所 岩沼市玉浦 林2地区
- ④ 参加生徒 復興支援委員, ボランティアセンターメンバー(20人)
- ⑤ 内容
花植え, 交流
- ⑥ 生徒の様子・反省等
 - ・ 林2地区の住民の方々より, 熱烈な歓迎をうけたことより, 若い世代との交流を望んでいることがわかった。
 - ・ 手作りのおにぎりや茶菓子を準備していただき, 中学生とざっくばらんに話や交流をすることができた。
 - ・ 花を植えたプランターを喜んでおり, 今後も継続した交流を望んでいるようであった。
 - ・ 準備までに時間がなかったため, 被災した土地で復興中の方々についての知識・理解が足りない状態での活動になってしまった。しかし, 活動後の生徒感想文を読むと, 交流を通し, 多くのことを学ぶことができたようである。

2 国際理解講演会

- ① ねらい
 - ・ 海外の被災地の様子を知ることを通して, これまで行ってきた被災地支援の目を広く海外に向ける。
 - ・ 自分たちができる国際貢献について考える機会とする。
- ② 日時 平成26年 9月 4日(木) 5, 6校時: 総合的な学習
- ③ 場所 体育館
- ④ 参加生徒 全校生徒
- ⑤ 内容
災害についての講演会
- ⑥ 演題と講師
内容: 海外の災害の状況, 各国の防災の取り組みについて
講師: アリマンシャル氏(男性, インドネシア出身, 東北大学在学),
ワン・ウェイチ氏(男性, 中国出身, 東北大学在学)
ドウワディ・チラワン氏(男性, ネパール出身)
- ⑦ 会次第 (進行: 主幹教諭)
 - ・ 校長先生の話(講師紹介含む)
 - ・ 講話(一人15分程度)
 - ・ 質疑応答
 - ・ 生徒代表お礼の言葉(生徒会会長)
 - ・ 花束贈呈(生徒会執行部)
- ⑧ その他
 - ・ 事前指導……最近起きた海外の災害の状況について学級毎に説明する。
 - ・ 事後指導……感想文の記入(講師の先生に送付)
 - ・ JRC委員を中心に, 学んだことや今後行いたい国際貢献について調べ, 文化祭で発表する。
- ⑨ 生徒の様子・反省など
 - ・ 宮城県国際化協会に依頼し, 外国人講師を派遣していただいたが, 3人とも日本語が上手で, パワーポイントを使用し, わかりやすく講演してくれたため, 生徒は大変興味をもったようだ。
 - ・ 日本以外のアジアの国も被災したり, 災害に悩まされていることを初めて知った生徒が多く, 新たな気づきが多かった。
 - ・ 講師の時間などの制限もあったので, 講演だけで終わってしまったが, 生徒との交流の場があっても良かった。
 - ・ この講演会やこれまでの復興支援やJRC活動の取り組みを文化祭で発表し,

全校で再度、共有し、今後の活動に生かすことができた。

3 大河原町総合防災訓練参加

① ねらい

- ・ 地震発生を想定した防災訓練に参加することで、自ら危険を予測し、回避する力を養う。
- ・ 地域住民とともに訓練に参加することで、地域の安全に貢献する心や地域の一人としての意識を高める。

② 日時 平成26年11月 9日（日）

③ 場所 大河原中学校 校庭

④ 参加生徒 復興支援委員（20名）

⑤ 内容

- ・ 開会式
- ・ 地震発生（サイレン吹鳴）
倒壊住宅救出訓練，土砂埋没救出訓練，応急手当訓練，煙中通過訓練，初期消火訓練

・ 閉会式

⑥ 生徒の様子・反省など

- ・ 避難訓練は学校でも何度も行っているが、地域住民や消防署員，消防団の方々と一緒に行うことで、緊張感をもち参加していた。
- ・ 今まで行ったことのない訓練を体験することができ、より防災を考える機会となった。
- ・ 大会や練習試合が多い日で、参加できる生徒が限られてしまった。

4 被災地支援活動Ⅱ「クリスマスミニコンサート&クリスマスツリーを楽しんでもらおう」

① ねらい、内容

- ・ 岩沼市仮設住宅の集会所前3か所にクリスマスツリーを飾り、住民の方々に季節の行事を楽しんでもらう。
- ・ ミニコンサートを行い、被災された方と交流を深め音楽を楽しんでもらう。
- ・ 支援活動を継続して行い、大河原中が学校生徒の末永い支援の思いを被災した方々に伝える。

② 日時 12月 7日（日）

③ 場所 岩沼市里の杜仮設住宅

④ 参加生徒 吹奏楽部，復興支援委員会生徒（30名）

⑤ 内容

クリスマスツリーの設置，クリスマスリースとメッセージの贈呈，ミニコンサート

⑥ 事前準備

- ・ 掲示用ポスター，ビラ，クリスマスリースの制作
- ・ 前日に仮設住宅を訪問し，クリスマスコンサートを知らせるビラを一軒一軒回って配付した。

⑦ 事後指導

- ・ クリスマス翌日（12月26日）に訪問し，クリスマスツリー撤去を行う（次年度も使用）。

⑧ 生徒の様子・反省など

- ・ 岩沼市エアポートマラソン開催日と重なったため，集会所に来てくださった方が例年より少なかった。しかし3年前から行っている支援活動なので，住民の方も覚えていてくれ，励ましの言葉をたくさんいただき，生徒の励みとなった。

- ・ クリスマスツリーの設置，プレゼントとして小物を贈呈すること以外の新たな取り組みや，
仮設住宅も2月で閉鎖されるので，移転先での新たな交流を考えていきたい。

3 学習成果

- ・ 本校では，被災地ながら被災地（岩沼市）を支援するという活動を4年にわたり継続してきた。初年度は仮設住宅入居者の交流が少ないということから，入居者が交流できる場をつくりたいという生徒からの意見が出され，「木製の手作りベンチ」を製作しプレゼントした。2年目は仮設住宅の夏は暑いということをニュースで聞き，メッセージ入りの「手作りうちわ」を美術部と全校生徒で制作しプレゼントした。3年目は1年目にプレゼントした手作りベンチの補修とペンキ塗りを行った。また，冬には募金によりクリスマスツリーを購入し，飾り付け，手作りの小物をプレゼントしてきた。また，吹奏楽部によるミニコンサートも開催してきた。このような活動を行うことで，委員以外の生徒にもボランティア活動に興味をもつようになり，生徒のアンケートでは9割以上の生徒が今度も復興支援活動を続けていきたいと意欲的が育ち，ボランティア精神の高揚がみられた。今後も継続して行うとともに，地域での自発的な支援活動や他ボランティア活動への積極的な参加，地域住民としての防災意識へつなげていきたい。
- ・ 継続して支援活動を行ってきた岩沼市里の杜仮設住宅は2月末で閉鎖したので，集団移転先への支援や，今年度から行った被災した土地で復興に取り組んでいる岩沼市玉浦地区の方への支援や交流を今後も続けるとともに，新しい支援活動も行っていきたい。
- ・ 毎回，復興支援活動をするときに生徒の輸送方法が確保されず，訪問回数や参加生徒の人数を制限することがあった。今回，ESDアシストプロジェクトの費用をいただき，復興支援のための訪問回数も増えた。また，ブルゾンを着用してボランティア活動を行うことで，生徒がチームで活動している様子が目立つようになり，現地の方々からあたたかい励ましの言葉をいただき，生徒の励みとなった。

（2）活動時間について（下記から選択して下さい。）

通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）

時間外活動の時間を使用

ユネスコクラブの活動として実施

その他（ ）